

回 覧

平成23年12月9日

富津市民の皆さまへ

大平興産株式会社

師走の候、皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より、弊社の事業活動に対し格別なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、平成23年11月18日に開催しました説明会におきましては、大変お世話になり、ありがとうございました。

つきましては、その結果を富津市民の皆様にご覧いただき、弊社が行っております廃棄物埋立てに対するご理解をいただきたく、大変恐縮でございますが、皆様方にご覧いただけますようお願い申し上げます。

なお、説明結果の内容につきまして、弊社のホームページにも掲載いたしました。

更に、富津市役所本庁舎行政資料コーナーや天羽行政センター、出張所、連絡所に配置されております富津市内放射線量測定結果に関する縦覧簿に、弊社のホームページに掲載されたその写しを掲載させていただくようになっておりますので、ご理解いただきたく重ねてお願い申し上げます。

問合せ先

大平興産株式会社

住所：東京都千代田区内幸町2-2-2

電話：03-3593-6151

担当：技術部 森

大塚山処分場における放射性のある廃棄物埋立てに係る説明会の結果について

大平興産株式会社

1. 開催日時：平成23年11月18日（金）午後1時30分～午後3時40分

2. 場所：大平興産株式会社大塚山処分場
千葉県富津市関709番地

3. 参加者：103名

4. 当社説明

①「自主管理規定」

- ・廃棄物の受け入れ条件は、国の基準に基づき放射性セシウムが8,000ベクレル/キログラム以下であること、及び廃棄物表面から1mの距離で毎時0.5マイクロシーベルト以下であること。

- ・放流水は放射性セシウムにつき50ベクレル/キログラム以下を目標とする。

（放射性ヨウ素は半減期が短いので水には出てこない。）

*実際の管理は、放流水で放射性セシウム不検出（1ベクレル/キログラム以下）を目標にしています。

水処理設備で発生する汚泥に10ベクレル/キログラムの放射性セシウムが検出されたら、水処理設備に放射性セシウムを除去できるゼオライト（福島第一原子力発電所で汚水処理に使用されているものと同じもの）を投入します。

②現状

- ・放流水は現在まで放射性セシウム不検出（1ベクレル/キログラム以下）。

浸出水（全処分場埋立地から出てくる水）も現在まで放射性セシウム不検出（1ベクレル/キログラム以下）。

- ・放射性のある廃棄物の受け入れ量は、3月以降2万トン。

放射性セシウムの最高濃度は、6,400ベクレル/キログラム（平成23年6月1日、千葉県企業庁南八幡浄水場汚泥）。

最低濃度は、40ベクレル/キログラム（平成23年10月14日、鴨川清掃センター焼却灰）。

11月の最高濃度は、2,064ベクレル/キログラム（平成23年11月16日、千葉市南部浄化センター焼却灰）。

- ・排出元

下水汚泥：江戸川（千葉県下水道公社）、手賀沼、船橋市、茂原市、栄町、大網白里町

浄水場汚泥：南八幡、佐倉、人見（以上千葉県企業庁）、千葉県北総、野田市

焼却灰：花見川下水、花見川第二下水、千葉市下水

一般廃棄物：市川市、鴨川市、かずさクリーンシステム

- ・処分場内環境：概ね毎時0.05マイクロシーベルト

5. 質疑応答

[説明会の開催等]

（問）この説明会を実施するに至った経緯を知りたい。

（答）市民の方が、当社への放射性のある廃棄物の搬入について、地元区長さんに問い合わせをされ、それを受けて、富津市から説明会を開催するよう指導がありましたので実施することにしました。

(問) 近隣住民への説明はいつ、誰に対して行ったのか？

(答) 6月に、高溝・宇藤原及び峰上12区から15区の区長さんに説明しました。

(問) 放射性のある廃棄物を搬入する前に住民に説明をするべきだ。
定期的に説明会を開催してもらいたい。

(答) 開催します。

[廃棄物の搬入等]

(問) 廃棄物の放射能はどのような測り方をしているか？

(答) 排出元データを概ね二週間ごとにもらっています。抜き取り分析も行っています。そのデータに基づいて受け入れを行っています。

(問) 1台ごとに測定しなければ、測定していない廃棄物に高濃度の放射能が含まれている可能性を否定できない。

(答) 廃棄物の放射能が高くなると線量計も高い数値を示します。
線量計を用いて1台ごとにチェックすることに変更します。

(問) 1日に何台搬入しているか？

(答) 40台前後です。

(問) 放射性のある廃棄物の受け入れ単価は高くしているのか？

(答) 他の廃棄物と同じ単価です。

(問) 線量計は何台あるか？どのような条件で測定しているか？

(答) 線量計は1台あります。測定場所を決め、地面から1mの高さで測定しています。

[他県ナンバーの車、当社ホームページ、ISO14001]

(問) 横浜、川崎ナンバーの車が、朝早くから多数入っているが、何を運んでいるのか？

(答) 千葉県は他県からの廃棄物の搬入について「事前協議制度」を設けていますので、他県の廃棄物を受け入れるのはむずかしい状況です。
横浜、川崎方面から来ているのは覆土材で廃棄物ではありません。

(問) ホームページに、他社車両による搬入は認めないと書かれている。覆土材の受け入れについても記載されていない。しかし、実際には入っている。
ホームページを実際に行われていることにあわせて直していくべきだ。

(答) 分かりました。

(問) ISO14001を取得しているとホームページに書かれているが、第二処分場の漏れ対策、放射性のある廃棄物の受け入れ等、ISO上はどうなっているのか？

(答) ISO14001では業者（当社）が環境に関連するテーマを年度毎に拾い上げ、各テーマについて目標を設定し改善していくというシステムになっていて、すべての事項を直ちに対象にすることはできませんが、適宜対応しています。

[現処分場の埋立期間、次期処分場の計画]

(問) 現処分場はいつまで埋立できるか？

(答) 来年いっぱいできます。

(問) 次期処分場の計画を教えてください。

(答) 第二処分場の上の部分シートを張り、シートが沈下による歪で切れることがないようにする、という計画を作り県に相談しています。

(問) 第二処分場の漏れ対策、次期処分場の計画等住民には知らされていない。

(答) 説明会を開きます。

[漁業補償]

(問) 廃棄物の放射能で漁業に被害が出たら補償するか？

(答) 原因がはっきりしていれば補償します。

[ポケット線量計]

(問) 従業員にポケット線量計をつけさせた方がいい。

(答) そのようにします。

*ポケット線量計：作業者が受ける放射線量を積算して測る測定器。作業者の胸に着けて使用する。

[現在の浸出水、放流水の濃度]

(説明) 現在まで、浸出水、放流水とも放射性セシウムは不検出（1ベクレル/キログラム以下）です。生物処理汚泥、凝集沈殿汚泥で10ベクレル/キログラムになったらゼオライトを投入します。

(問) ゼオライトが8,000ベクレルキログラムを超えたら処分場への埋立はできないはず。

(答) 国、県に相談します。

(説明) 一般廃棄物焼却灰のセシウムは水に溶けやすいといわれていますが、覆土と混合すると水に溶けにくくなるという実験データが得られました。

(問) セシウム以外のストロンチウム、ウラン、プルトニウムについて検討しているか？

(答) ウラン235は浸出水、放流水について一度分析しましたが「不検出」でした。

ストロンチウムは分析を引き受けてくれる機関を探しています。

ストロンチウムはセシウムより水に溶解しにくい物質です。

プルトニウムも分析機関を探しています。

[放流水の安全性チェック]

(問) 放流水はきれいだが、安全性をチェックするために放流水で魚を飼ったほうがいい。

(答) 飼う方向で検討します。

(問) pH、水温等リアルタイムで記録しているか？

(答) pHはコンピューター上にリアルタイムで記録されています。

*pH：水素イオン濃度指数、水が酸性かアルカリ性かを見る指標です。

(問) 放流水の分析項目は農業用水と同じか？

(答) 廃棄物処理法の項目等（40項目）を測定しています。